

くらしを支える食料生産

目 標

- ・酪農の盛んな地域では、どのような工夫をして、私たちの食料生産を支えているのか学習する。
- ・酪農体験を通して、日本の食文化に対する関心を高め、食への感謝の心をもつ。

育てたい力

- 食料生産に携わる人々の営み、願いや努力を体験的に知ることを通して、社会科の学習における農業に関する学びを深める。
- 食料生産における様々な活動を体験することで、食に関する視野を広げると共に、食を多面的に捉えることができるようにする。

主な学習活動（社会科：9 時間）

くらしを支える食料生産（8 月）

- ・普段自分たちが食べているものはどこで、どのように作られているのかを学んだ。
- ・生産者の工夫や努力を知ること、食への関心を高めることができた。（社会科：4 時間）

酪農体験

（8 月）

- ・牧場の方々の指導の下、「搾乳体験」「仔牛への餌やり」「バター作り」「小動物とのふれあい」の四つの体験活動を行った。
- ・自分たちが毎日当たり前のように給食で飲んでいる牛乳が、どれだけ苦勞して生産されているのかを肌で感じる事ができ、実感を持った理解ができた。（社会科：4 時間）

芋掘り体験

（10 月）

- ・学校園で栽培したジャガイモを収穫した。一つの種いもからたくさんジャガイモが取れることに驚いたり、一つ一つの実の大きさが違う理由を考えたりする姿が見られた。（社会科：1 時間）



取組を終えて

子どもの声（感想）

子どもからは、「牛乳を残さないようにしよう」、「酪農の仕事は大変だから、食べ物に感謝しよう」、「来年は畑の世話をみんなでもっと協力して、たくさんの野菜を作りたい」などの感想が寄せられた。

取組の成果

様々な体験活動を通して、教科書での学びをより深めた。食料生産に携わる人々の営みを間近で見て、体験することで、社会科の学習の理解を深めることができ、食料生産について自分の事として考えたり、生産者の立場に立って物事を考えたりする姿が見られた。

体験先、関係機関

むらかみ牧場（恵庭市）